令和元年度第２回高知県産業振興計画フォローアップ委員会 観光部会議事概要

日　時：令和２年２月４日（火）10:00～12:05
場　所：高知県立高知城歴史博物館　１階ホール
出席者：部会員 12 名中、８名が出席（代理出席含む）
議　事：（１）第４期産業振興計画＜観光分野＞の全体像（案）について
　　（２）第４期産業振興計画＜観光分野＞の重点施策（案）について
議事について事務局より説明を行い、意見交換を行った。（主な意見は以下のとおり）
議事については、部会員からの異議はなく原案どおり了承された。

※意見交換概要

（黒笹　部会員）
・県外観光客入込数と観光総消費額は相互に関連する数字だと思うが、入込数を増やすことに軸足を置くのか、それとも個人の消費額を上げることに軸足を置くのか。
・高知県がどちらに軸足を置くのが大事かと考えると、私は一人当たりの消費額を今より増やすことだと思う。
・日本人観光客と外国人観光客の個人消費を増やす取り組みは、どちらが取り組みやすいのか。
・消費額を増やすためには、宿泊数を増やすことが必要だと思うが、宿泊の形態は多様化してきている中で、地域地域の戦略も必要ではないか。

（吉村　観光振興部長）
・第４期計画では、県外観光客入込数も観光総消費額もどちらも重要だが、軸足は観光総消費額に移していかなければいけないと思っている。
・外国人観光客の観光消費額等の動向は把握できていないが、第４期計画では、県内の旅館・ホテルとも連携して外国人観光客の動態調査を実施する予定。
・県内各地で新しい形の宿泊施設がオープンするので、今後も様々な選択肢を増やすことに取り組んでいきたい。

（眞田　部会員）
・旅行会社の立場として、昨今の新型コロナウイルスの問題による高知県への影響を危惧している。
・高知県は、外国客船の寄港も多いので、今後の影響を気にかけておくべきではないか。
・ＩＴ企業では、働き改革の一環で「ワーケーション」という地方でバケーションしながら働ける場所を探している。
・高知県として、ワーケーションの働きかけをしていくと観光の滞在日数や消費額の増加

にもつながるのではないか。
・最近、世界的に環境意識が高まり、ＳＤＧｓの取り組みなしでは観光地として選ばれなくなる時代がくると言われている。
・特に自然・体験型観光でターゲットとなり得る欧米豪の旅行者は70%以上が環境意識への配慮がない地域には行かないという調査結果もある。
・他の自治体でＳＤＧｓの取り組みを前面に出しているところはまだないと思うので、高知県として取り組めば効果的なＰＲになるのではないか。

（吉村　観光振興部長）
・コロナウイルスについては、庁内での連携だけでなく、市町村や観光協会、観光施設、宿泊施設に対して、情報提供の依頼や相談体制を取っており、観光振興部としても万全の体制を取っていきたい。
・ＳＤＧｓの取り組みについては、観光振興部に限らず、産業振興計画全体においても進めて行く必要があると考えており、意識して取り組んでいきたい。

（町田　部会員）
・訪日外国人向けプロモーションについて、潜在的な層を掘り起こすために、どの国のターゲットにどのようなプロモーションをしていくのか。
・国ごとの生活スタイルのリサーチやマーケティングをすることも必要ではないか。

（小西　国際観光課長）
・まずは、高知県への観光客数が多い８市場を重点市場としてプロモーションに取り組む。
・特に、ネットや動画の視聴が多い20～40代の層に「旅行好き」というカテゴライズもプラスして動画広告を出す。閲覧状況を分析して、さらにアドネットワーク広告で「VISIT KOCHI JAPAN」に誘導して興味・関心を高めていただくことを考えている。
・また、宿泊施設にもご協力いただき、外国人観光客の動向も調査・分析しながら次のプロモーションを展開していきたい。
・加えて、在日の外国人専門家の方にもご協力いただき、外国人の視点での旅行商品の造成にも取り組んでいるところ。

（渡部　部会員）
・文化芸術振興基本法が改正され、文化芸術の振興に留まらず、関連分野との連携が求められている。
・文化振興が観光振興と結びついて、地域の活性化につながるよう文化施設も努力が必要。
・観光を意識した文化活動や文化施設のあり方というのは避けて通れない。
・その中で戸惑うのは、観光や地域おこしに関わる方と文化施設との目的の相違を前提に

両者の活動を調和させることを円滑に進めないと、連携が取りにくいことがある。
・地域のコーディネーターと文化施設が連携することにより、深く長続きする歴史観光が実現すると思う。

（吉村　観光振興部長）
・「地域の強みを生かした滞在型観光クラスターづくり」には、関連産業だけでなく、歴史や文化、アクティビティなど一次、二次、三次産業の事業者との連携が必要。
・「歴史」「食」「自然」という本県の強みを十分に生かすことを重視して地域の磨き上げを進めていきたいので、これからもご協力いただきたい。

（別府　地域観光課長）
・歴史文化施設も観光を視野に入れていただいているということなので、広域単位での観光クラスターづくりを進める際には、地域の教育委員会や文化施設にもご協力いただきたい。

（片岡　部会員）
・二次交通が課題と言われるが、「自然＆体験キャンペーン」でどのように課題となっているか事業者まで情報が届かないので、二次交通を利用したい観光客が実際にどのような手段を利用して、どのような不満を持っているか把握していたら教えていただきたい。
・観光だけでプラス１泊は難しいかもしれないが、スポーツや芸能、音楽など他の分野と連携すると簡単にプラス１泊できるのではないか。

（澤田　観光政策課長）
・県外観光客の入込で最も多いのは、自家用車の約 64%となっており、この傾向は「自然＆体験キャンペーン」の前後で変化はない。
・他方で、自動車の運転ができない観光客もいるので、二次交通の整備は一定課題として捉えている。

（吉村　観光振興部長）
・スポーツや芸能も観光のＰＲに加え、宿泊を伸ばすことは重要。
・特に芸能は、ナイトタイムエコノミーにもつながる効果的な取り組みだと考える。

（谷脇　部会員）
・一人当たりの消費額が減っている要因として、体験等の消費額が減っているのか。
・土佐の観光創生塾で商品を造成してきているようだが、今後は地域連携ＤＭＯがＰＤＣＡサイクルを回して磨き上げていくというイメージか。

（吉村　観光振興部長）
・アンケート調査によると３泊４日の観光客の割合が１割未満で推移しているので、そこを伸ばしていきたい。
・中国四国地方の近隣県の観光客の一人当たりの消費額を増やすことと、関東など遠方の観光客の宿泊数も伸ばしていきたいと考えている。

（別府　地域観光課長）
・観光商品の磨き上げについては、土佐の観光創生塾で「パワーアップ編」というコースを新設して、より販売力のある商品へ磨き上げすることや、観光クラスターづくりの中で体験プログラム等の磨き上げもしていく。
・人材育成については、「市町村をまたがる観光クラスターづくり」を進めながら、観光地域づくりのマネジメントできる人材を育てていきたいと考えている。
・具体的には、土佐の観光創生塾で「観光地域づくりコース」を新設し、ＤＭＯの先進事例の視察やワークショップを通じて知識を深め、座学でマネジメントやマーケティング、ブランディングのノウハウを取得していただき、広域エリアでのフィールドワークを通じて観光クラスターの整備計画を作成していただく。

（刈谷　部会員代理）
・ＭＹ遊バスについては、混雑により外国客船寄港時に観光客を案内するのが危険なため、五台山に外国客船の観光客を案内できていない。
・そのため、通訳ガイドとして町歩きを充実させる傾向にある。

（谷脇　おもてなし課長）
・おっしゃられた状況については、県としてもお話を伺っている。
・五台山や桂浜方面にもＭＹ遊バスを活用して行っていただけるように観光コンベンション協会とも検討していきたい。

（片岡　部会員）
・ＭＹ遊バスの受託事業者としても、過去に外国客船の観光客が殺到したことがあり、課題として認識しているので、改善に向けて関係機関と協議してまいりたい。